

## 調査レポート

## 2014年4~6月期のGDP(1次速報)予測

8月13日に公表予定の2014年4~6月期の実質GDP成長率は、消費税率引き上げ前の駆け込み需要の反動減によって前期比 - 2.4% (年率換算 - 9.2%) と大きく落ち込んだと見込まれる。

個人消費は、駆け込み需要の反動減に、実質賃金の減少による落ち込みも加わって急減した可能性がある。設備投資も、1~3月期の急増の反動に加え、増税後の業績改善の一服や企業の設備投資姿勢の慎重化により、大幅な減少に転じたと考えられる。このため、公需はプラスを維持したものの、内需の寄与度は前期比 - 3.3% と大幅なマイナスとなった模様である。一方、輸出は減少したものの、内需の落ち込みの影響から輸入が大きく減少しており、外需寄与度は前期比 + 0.9% と4四半期ぶりにプラスに転じたと見込まれる。

名目GDPは前期比 - 0.1% (年率換算 - 0.4%) と小幅のマイナスになったと予想される。また、GDPデフレーターは、消費税率引き上げの影響により前年同期比 + 2.2% と大幅プラスとなった見込みである。

	2013年				前期比 (%)	
	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6
実質GDP	1.3	0.7	0.3	0.1	1.6	- 2.4
同 (年率)	5.3	2.9	1.3	0.3	6.7	- 9.2
同 (前年同期比)	0.1	1.2	2.3	2.5	3.0	- 0.5
内需寄与度 (*)	0.9	0.6	0.8	0.6	1.9	- 3.3
個人消費	1.0	0.7	0.2	0.4	2.2	- 3.7
住宅投資	1.8	0.8	3.3	4.3	3.1	- 13.3
設備投資	- 2.2	0.9	0.9	1.6	7.6	- 6.9
民間在庫 (*)	0.1	- 0.4	0.1	- 0.1	- 0.5	0.5
政府最終消費	0.9	0.4	0.2	0.2	0.1	0.1
公共投資	4.6	6.4	6.8	1.1	- 2.7	0.0
外需寄与度 (*)	0.4	0.1	- 0.5	- 0.6	- 0.2	0.9
輸出	4.3	2.9	- 0.7	0.5	6.0	- 1.5
輸入	1.1	1.8	2.4	3.7	6.3	- 5.6
名目GDP	0.9	0.6	0.2	0.2	1.4	- 0.1
同 (年率)	3.7	2.6	0.9	0.8	5.7	- 0.4
同 (前年同期比)	- 1.0	0.6	1.9	2.0	3.0	1.7
GDPデフレーター (前年同期比)	- 1.0	- 0.6	- 0.4	- 0.4	- 0.1	2.2

(注) 内需寄与度、民間在庫、外需寄与度は実質GDPに対する寄与度  
 (出所) 内閣府「四半期別GDP速報」

三菱UFJリサーチ &amp; コンサルティング株式会社

調査部 主任研究員 小林 真一郎

〒105-8501 東京都港区虎ノ門5-11-2

TEL: 03-6733-1070

需要項目別の動向は以下の通りである。

個人消費（前期比実質 - 3.7%）

個人消費は、耐久財を中心とした駆け込み需要の反動減に、実質賃金の減少による落ち込みも加わって急減したと見込まれる。

住宅投資（前期比実質 - 13.3%）

駆け込み需要の反動減により住宅着工件数が大きく落ち込んでおり、住宅投資は2桁の落ち込みを記録した可能性がある。

設備投資（前期比実質 - 6.9%）

設備投資は、1~3月期に急増したことへの反動に加え、増税後、業績改善が一服していることや、企業が設備投資に慎重になっていることにより、大幅な減少に転じたと考えられる。先行指標である機械受注（船舶・電力を除く民需）も、このところ弱い動きとなっている。

在庫投資（前期比実質寄与度 + 0.5%）

駆け込み需要によって減少した在庫の復元の動きに加え、増税後の出荷の落ち込みから一部の業種で在庫が積み上がっている可能性があり、在庫投資のGDP成長率に対する寄与度は大きくプラスに転じたと予想される。

政府最終消費支出（前期比実質 + 0.1%）

医療費などを中心に政府サービスに対する需要が増加基調にあることから、引き続き前期比で増加した可能性が高い。

公共投資（前期比実質 ± 0.0%）

2013年度の補正予算の効果が出始めたことや、2014年度予算の前倒し執行の影響により、公共投資は前期比横ばいまで持ち直したと見込まれる。

外需（前期比実質寄与度 + 0.9%、輸出：前期比実質 - 1.5%、輸入：同 - 5.6%）

海外景気の持ち直しが続き、円安が定着化しているものの、輸出数量の伸び悩みが続いており、輸出は前期比マイナスに転じたと予想される。一方、輸入は、駆け込み需要で増加した1~3月期の反動もあって、前期比で大幅なマイナスに転じたと見込まれる。この結果、外需のGDP成長率に対する寄与度は + 0.9%と4四半期ぶりにプラスに転じたと予想される。

GDPデフレーター（前年同期比 + 2.2%）

GDPデフレーターは、輸入物価の上昇が国内物価に浸透してきていることや、消費税率引き上げの影響により2009年7~9月期以来のプラスに転じた見込みである（季節調整値では前期比 + 2.3%）。

- ご利用に際して -

- 本資料は、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一した見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所：三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡下さい。